

令和7年度 四国森林管理局保護林管理委員会  
議事概要

1. 開催日時：令和8年2月9日（月） 13：30～16：00

2. 開催場所：四国森林管理局 大会議室（2階）

3. 議 題

- (1) 令和7年度 保護林モニタリング調査結果報告について
- (2) 令和7年度 四国山地緑の回廊モニタリング調査結果報告について
- (3) 令和8年度 保護林及び緑の回廊モニタリング調査（案）について
- (4) 令和8年度 保護林及び緑の回廊における事業の予定について
- (5) その他

4. 委員からの主な意見

(1) 令和7年度 保護林モニタリング調査結果報告

○哺乳類調査において森林性の多くの種が確認されたこと、特にコウモリ調査で多くの種が確認できたことは、たいへん重要な成果。

○調査方法について、胸高断面積合計で表すのはメインの木を把握するためには適しているが、シカの影響を考えるためには、小径木やその本数に着目した方がよいのではないか。センサーカメラでの動物の撮影枚数についても、前回調査との比較をする際に割合のみではなく総数の推移も示すべき。

○小田深山へは何度か入ったことがある。まだササがありシカ被害はひどくはないが、これからの2～3年で被害が出るのではという印象。今後の注意が必要。

ブナ大径木の枯死が1本見られたのは更新するためのギャップができ遷移にとっては好ましいことであるが、それに代わって更新できるブナの小径木、中径木が成長していないことは問題。

(2) 令和7年度 四国山地緑の回廊モニタリング調査結果報告

○調査地中に愛媛県植生保全協議会設置の防鹿ネットがあり、ネットの内と外では植生が大きく違っていることから、ニホンジカによる食害は今回の報告以上に深刻な状況にあると考えられる。

○面河溪では、あちこちでシカの食痕や獣道が確認されている。尾根を越えて高知県側に入るとシカの食害がひどく、あまり悠長にしていられない状況である。ササが開花して枯れた後に荒地化したような箇所があり、そこを糸口としてシカが侵入してくることが危惧される。

(5) その他

○ヤッコソウが寄生するのは樹高が高く胸高直径が大きい木で、カシノナガキクイムシの被害にあうナラ枯れ木も同条件という結果が見られる。この条件について考察することが重要と考える。